

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2003-09

発行日：平成15年9月9日
発行元：計画・交通研究会
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F
TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489
E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp
Homepage =www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/

目次

Opinion	1-2
地方都市の再生と公共事業の役割	
News Letters	3-8
事業報告・活動報告	
Announcement	8-9
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	9
刊行物・文献資料	
Backyard	10
事務局通信	

Opinion 地方都市の再生と公共事業の役割 永井 護

1) 交流を通しての中心市街地の活性化

宇都宮大学に勤務して以来、幾つかの市で観光地や商業地の再整備に継続的に係わってきた。それらは結果的に基盤施設の整備を通して街の交流機能を充実させようとしてきたといえる。十数年経過し、一段落したプロジェクトも幾つか出てきた。中心市街地は様々な目的を持った内外の人々が交流する場である。そこを訪れる度に来訪者や街の人々がどんな行動をとっているか、あるいはその結果として街が変わったことがないか、が気になる。それを見ながらこまかなデザインに関することからプロジェクトのコンセプトに関することまで無意識にチェックする。

地域の社会的あるいは経済的側面における活性化は交流を通してはかられる時代になりつつある。種々の改善が試みられつつあるものの、そのような認識と地域政策や公共事業の間の齟齬はまだ大きい。

2) 公共事業に求められる役割の変化

以上のような認識に立つと、次のような点から公共事業のあり方を見直す必要がある。

- ・公共空間の永続性：都市空間の個性やシンボルは交流を促進する環境として特に大切であり、かつ土木施設は耐用年数が永いの

が特徴である。しかし、宇都宮市の大通りがそうであるように、ここ十数年だけを考えてみても時代背景の変化にともない同じ公共空間の捉え方が、幾度も変化してきているのが現実である。歴史的に残されてきた空間は、ある時は捨てられたような状況に置かれたとしても、異なった時代背景のなかで何度か新しい解釈を与えられて復活し、生き残ってきた。さらに、我々の時代に創る公共空間がどれだけ異なった時代背景の中で新しい解釈を得て生き残れるかを気遣うべき場所がそれぞれの都市にほしい。

- ・公共空間の多目的性：公共空間には色々な使われ方があり、一つの公共空間が複数の利用目的を同時に、あるいは時間ごとに分けて担っている。しかし、交流といった抽象的な機能は忘れられがちであり、役所のなかでコンセンサスもえられにくい。事業に一律の目的があるのではなく、対象となる空間ごとに異なる目的がある。それをより反映できるシステムが望まれる。また、組織体制を反映して役所の施策体系のなかでも、目的と手段の関係がうまく連動していない場合が多い。「中心市街地の活性化」や「観光振興」等、交流に関わる政策はその典型である。

- ・明確なシナリオに基づいた公共事業：公共事業により生み出された空間は来訪者にインパクトを与え、人々のそこでの行動を変える。これは空間のできに直接左右される。それが交流を拡大させ、さらに地区の活性化にまでつながるかは、その変化を捉えて地区の人々がどのように対応行動をとるかに係わる。空間の直接的なインパクトから地元の対応行動である間接的なインパクトへのシナリオをできるだけ具体的にすることが一つ論点となる。
- ・複数事業の相乗効果：地元の人々の対応行動をより確かなものにするために、複数の事業をうまく組み合わせ、相乗効果を発揮する事が二つ目の論点である。色々な事業をいれるが、それらがバラバラで明確な意図が見いだされない場合や、互いに逆効果である場合も多く見受けられる。
- ・街づくりの合意形成の場としての公共事業：このように考えると社会システムとしての公共事業は空間を創出するとともに、それに対応する人々を形成する仕組みであると言える。空間と人々との相関関係が事業の成否となる。見方を変えると、公共事業を検討する場は、市民の間で街づくりを総合的に検討しながら、しかも具体的な行動の合意を形成する機会として格好の場となる。

3) 事後評価の必要性

- ・Plan-Do-Seeのサイクルの形成：特に、市街地は事業の積み重ねとして形成されていくため、これまで実施してきた事業の事後評価を行い、公共事業のプロセスをPlan-Do-Seeの連続的なサイクルとして形成することが不可欠である
- ・事業改善への有効な情報：これまでの事業評価はどちらかという、主に予算獲得の論拠として機能するために、単独で比較的大規模な事業に対して、第三者が客観的に判断できるように精緻化されてきているように思われる。それは事業の是非を大局的に判断する場合に非常に大切なことであるが、一方で、関係者の中で具体的に事業の改善策を検討することも大切である。その場合は、前者とはかなり異なったアプローチが必要になると思われる。すなわち、前述のシナリオのどの部分まで達成され、どこがうまくいかなかったかをできるだけ具体的に明らかにすることである。
- ・市民を含めた関係者の共通の理解：しかも、地元の人々が評価の内容をトレースできることが、共通の理解を生むための条件となる。彼らが事業の成否を握っており、シナリオ自体も作成することになるからである。

(計画・交通研究会 正会員/
宇都宮大学工学部 教授)



自動車交通を円滑にするための中央分離帯がイベント空間としての大通りを分断している。(宇都宮市の宮祭り)

2003年7月 計交研・当て塾共催セミナー
(第 講・第6回)

日時:平成15年7月9日(水)17:00~19:00

場所:計画・交通研究会会議室

講師:「当て塾」塾長 鈴木 忠義

演題:第3章 旅と観光(汎観光)(その2)

第 講・第6回の共催セミナーは、計画・交通研究会関係3名、「当て塾」関係14名(塾長を含む)計17名であった。

今回は、「第3章 旅と観光(汎観光)」のつづきとして、旅と観光の目的別の整理、旅行形態別の整理、コメントの観点についてであった。

【講義概要】

1. 目的別の旅と観光(汎観光)

旅や観光には多くの目的と形態があるが、これらをきちんと整理する必要がある。

下記に19項目の目的を列挙したが、どのように分類・整理するかが課題である。

この目的を概説すると、まず、人間の生命に関わる食糧や薬などを求めた冒険・探検・採集の旅、宗教や信仰に関わる巡礼・修行の旅がある。人の心に関しては、場所を離れることで悲しみを意識から遠ざけ忘れる旅、昔を懐かしく思い起こす懐旧旅行などもある。

芭蕉の旅の追体験を行う旅もある。観光地にある籠、人力車、馬車などは、追体験の装置だ。

一方、ビジネスの旅では、ついでに観光地を訪れる“兼観光”もある。国際会議の合間に観光地を訪れる兼観光の要素は重要である。

冠婚葬祭の旅は、旅行の名目、きっかけとなる。また、高速交通体系の発達で、かなり広範囲なものになっている。

社交・親睦の旅では、団体が減少しており、団体客向け施設が問題となっている。旅の本質を考えた施設整備が必要である。

休養・保養いわゆるリゾートでは、欧米で

は社交も重要な要素である。我が国では社交術が発達しておらず、社交はあまりみられない。保養には修養も含まれ、図書館も大切である。

最近では、若者が長期間の儉約旅行を行うアウトティングがある。

【目的別】・・・どう分類するかは宿題

1)冒険・採集 / 2)巡礼・遍路 / 3)忘れる旅 / 4)センチメンタルジャーニー / 5)懐旧旅行 / 6)追体験 / 7)調査・研究 / 8)取材・ビジネス(兼観光) / 9)観賞・創作 / 10)研修・コレクション / 11)修学旅行 / 12)イベント参加・体験 / 13)冠婚葬祭・墓参 / 14)社交・親睦 / 15)スポーツ / 16)レクリエーション・気晴らし / 17)周遊旅行・遊覧 / 18)休養・保養(修養) / 19)アウトティング(一部省略)

2. 旅行の形態論

旅行の形態については、人数、構成、仲間、旅行社の関わり方などから、下記のような項目が挙げられる。旅行社からみた場合は、主催旅行と手配旅行に大別される。

【旅行形態】

1)一人旅 / 2)二人旅 / 3)グループ / 4)外国人 / 5)親子、家族 / 6)友人 / 7)団体 / 8)職場 / 9)学校 / 10)町内会 / 11)講、旅行積立 / 12)旅行業 / 13)パック / 14)主催旅行 / 15)手配旅行

3. コメントのねらい

以上の目的と形態の分類をもとに、旅行術と旅行業の体系化を行う必要がある。

旅行術は、旅人(第一主体)にとってのもので、旅先からの連絡方法、病気への対応、アルバムの整理方法など、幅広い内容が含まれる。

旅行業は、旅慣れない第一主体と、観光地(第二主体)及び観光業者(第三主体)を仲介するもので、手配の手続きなどの基本的な分

部を整理する必要がある。個々のノウハウは別として、基本のフローチャートは公開して欲しい。

ここで、地域がハードを整え旅行業者が旅行商品（旅のシナリオ等）を販売するが、この両者をマッチさせることが重要である。“オペラハウスで国定忠治を上演する”といったことがないように、十分な配慮が必要である。

第二主体である地域の課題は、第6章と第8章に進んで解説する。

【ねらい】

- 1) 事例 / 2) 内容 / 3) 特色(違い) / 4) 分類
- 5) 旅行業 / 6) 旅行関連産業 / 7) 旅行術 /
- 8) 汎観光の中での位置づけ

(文責:「当て塾」東京事務局 野倉 淳)

2003年7月 計交研・当て塾共催セミナー (第 講・第7回)

日時:平成15年7月23日(水)17:00~19:00

場所:計画・交通研究会会議室

講師:「当て塾」塾長 鈴木 忠義

演題:第4章 観光(汎観光)の意義と役割

第 講・第7回の共催セミナーは、計画・交通研究会関係7名、「当て塾」関係8名(塾長を含む)計15名であった。

今回は、「第4章 観光(汎観光)の意義と役割」についてで、汎観光における三つの主体とその目的について解説された。

【講義概要】

1. 汎観光における三つの主体

汎観光の意義と役割を考えると、“誰にとってのものか”ということが大切である。この誰というのは、計画の5要素(主体、目的、対象、手段、構成)のうち主体である。

汎観光では、以下の三つの主体がある。

第一主体:観光者(消費者、最終需要を生み出す人)(発地)

第二主体:観光者を受け入れる地域の様々な職業の人々、行政(自治体)(受け地)

第三主体:観光者をもてなす企業体と従事者

(*複数の主体に属する人もいる)

2. 三つの主体の目的

(1) 第一主体

ビジネスと兼観光が大切である。国際会議で我が国を訪れた海外の要人などは、京都、奈良、筑波などを見学する。これは、ある国を知るためには、歴史的なものから最先端のものを観る必要があるからであり、そうした国の基本をみせることが観光なのである。

観光者の活動は、旅を伴う余暇活動(講義資料の文献-1「観光の学と術の体系」の余暇活動の分類1510~1519を参照)として整理できる。

産業がピークの後の衰退するように、余暇活動にも寿命がある。例えば、スノーボードがいつ日本に入り普及したかなど、余暇活動の進歩と寿命を研究する必要がある。

観光者の性格として、安・近・短が基本に位置づけられる。遠くにある観光地では、観光者がわざわざ行くような条件を整える必要がある。それは、Only-Oneの魅力づくりである。

観光者のP・D・M(Plan - Do - Memory)が重要である。M = 良い思い出が作られればリピーターとして帰ってくる。

(2) 第二主体

“国の光りを観る”という観光の語源からも、輝かなければ観光にならない。あらゆる部門の人々が参加してまちづくりを行い、その総仕上げによって汎観光の盛況が生まれる。京都や奈良は、最初から観光地として造った訳ではない。

人間の生きがい対象(経済、権力、学問、審美、宗教、人間愛)に対応したまちづくりの課題(鈴木忠義:「人間に学ぶまちづくり」P.49参照)にどう対処していくかである。

受け地では第一に金の話しが出るが、そうではなく、自分たちの生活が豊になれば人が来る、その結果として、金が落ちるのである。

そのとき、人々の交流が大切である（疎外社会の反省）。

（3）第三主体

汎観光に関連する企業は利潤を追求し、安定した成長と持続性を願うものであるが、同時に、社会的・地域的責任もある。観光関連産業の人達は、第一主体のことをもっと勉強し、観光の本質、人がなぜ旅をするかを知る必要がある。

例えば、土産品の基本は希少性と記念性にあり、観光者の良い思い出 = Mとなるのが大切である。

3. 意義と役割

汎観光の意義と役割は、三つの主体それぞれが満足することにある。ソフトとハードの総合的な充実によりリピーターが増加し、通り一遍の触れ合いから馴染みとなる。国民は、観光行動 = 文化的行動に喜びを感じ幸せになる。地域の文化は向上し、第二主体に良い子孫が育つ。そして、第三主体も潤うのである。

悪い意味での水商売的なイメージがまだまだ強く、観光政策に十分な予算が付いていない。上記のような汎観光の本来の意義と役割が認知されるよう努力していく必要がある。

（文責：「当て塾」東京事務局 野倉 淳）

魅力ある美しい“まち”づくり 鼎談

日時 平成15年7月7日(月)17:00-19:00

場所 計画・交通研究会 会議室

鼎談者

埼玉大学教授 窪田 陽一先生

工学院大学 名誉教授 中島 泰先生

中国同済大学顧問教授 渡部与四郎先生

今回の定例会は、「魅力ある美しい“まち”づくり 鼎談」とし、三先生のお話を中心に参加者と「美しいまち」の問題点や課題などについての議論した。

出席者数 20名

【中嶋泰先生のお話の概要】

美しさとは何か 美しくないものを見出す

ことが必要

美しくないものの例として、まちを食、排泄など生活の目で見ることがある。

廃棄物システムは、大昔からあったもので、排泄物などの処理は、江戸時代が、当時世界で最も進んでいたのではないかと

まちは、多様な目で見ることがある

川、町、寺などの大きさや町のスケールを子供の目を見た町、大人になってスケールギャップなどに驚くことなどがある。

計画者としての眼や利用者としての眼を持つ必要がある。

「多様な眼で見る例」と美しくないもののもうひとつの例として放置自転車を取り上げたい。

自転車は、人が始めて機械との接触するものとして自転車は、肌で感じられる装置

自転車からからまちを見ると

- 美しさ、汚さなどが肌で感じられる。
- 道路混雑など交通環境の問題が感じられる。同時に交通道德の無さなど
- 放置自転車を見ると、自転車の時代、高齢化、スピード化の時代になると、道路混雑や放置自転車などの問題が大きなテーマとなる。
- 交通道德以前に使う人の意識が無い。なっていない。人の目に付かない場所での混雑をどのようにしていくのか。
- まちにおける生理的現象対策の不足（公衆便所など）



中嶋 泰先生

自転車から見ても多くのまちの問題がわかる。
変化するものしないもの

- 佃の渡しの50年前の写真ですが、変わるものと変わらないものがある。まちには、山、川、石垣、自然など変わらぬもの、建物など変わるものの判別が必要
- 東京で変わらないものは川、隅田川や橋などは多少変わっているが、川は、恋を語る場で隅田川の意味を考えるべき
- 隅田川は、昔は、恋を語る場で、フランスでもセーヌへ行こうという恋が生じたという意味がある。

学ぶことが必要 学ぶ姿勢

歳を取って、生涯学習という言葉があるが、一生やるもので、地域の伝承などを見直す姿勢が必要

- 木下街道など地名、土地名の由来、伝承の大切さ
- 祇園祭りは、日本で最も長い祭りであるが、その祭りを作り上げている仕組みや舞妓さんなどがいるが、一生学生で、勉強している。書道、華道、踊りを毎日生活の中で行っている。

町を常に考えること

- 善福寺川、石神井川の汚染が著しいが、川への関心が薄れてきた。
- 川はかわらないもののひとつ、

山・川・まちの俯瞰的な見方が必要で、人は誰でも、子供の時から原風景が有るはず。

まちには年齢がある

- 律令時代の中津道などまちにはたくさんの資源が埋まっている。
- 浅草寺のサントリー社屋のモニュメント、浅草寺の魂をかたちにしたのではと思うと、感慨深い
- 地域の歴史を継承しないものは、違和感がある。

町の季節感

昔から日本には、打ち水 涼を呼ぶ、季節を感じる豊かさがあった。これを教育する必要が有る。やらずの雨、風情の有る町、音、風情、ポエジイ等を大切にすることがある。

町を美しくするには、個人の審美眼を磨くこと、これは、美しくないものを知ることでもある。

【渡部与四郎先生のお話概要】

美しさについて、私の恩師の石川栄躍先生は、ポエジイあるまちをつくれといわれた。私は、まちの美しさに、大胆に提言してみたい。

感銘を受けるまち

美しい町 文化財、絵を書きたくなるような、忘れがたい美しい風景が必要。このためには3次元的まちづくが必要

作るまち 地域材料、技術、それを伝承する仕組み

風土など、地域の人々が作り出すものの中の美しさや審美的ルールの再発見が必要と考えている。黄金分割等の視点などを考える必要がある。

守る 美しい都市を提案する必要がある。

浮浪者のいる町など残念で、まちの維持管理が大切である。地域社会で環境を守るためのコミュニティの大切さやファンドの設立など新たな社会システムの構築が必要と考える。

具体的取組として

地域の評価が必要

ゴミの廃棄物の問題等地域の評価が必要で、社会と個人をつなぐコミュニティが大切で、KJ法などを活用した評価方式の確立が必要。

多様なニーズや多くの人々の交流時代に



渡部与四郎先生

は、多目的広場の施設等が必要となろう。

マニフェストとして示される暮らし、安全、環境などの数値目標のみならず、全体としてどのような社会になるのかのシナリオが問題で、数値目標のみでは十分でない。

まちづくりのシナリオが必要

柏の例のような、まちづくりのシナリオを作り上げることが必要

田園と都市の共生に向けてクラインガルデンなどの例にあるように自然との共生や地域の循環システムなどを検討する必要がある。

都市再生への提案

都市再生の中で、川を活かした都市再生の考え方もあって良いのではないかと、スーパー堤防事業などを活用して新たな空間を作り出していく必要がある。

都市再生の例として

チームズミールにみる都市開発などは、生態系をうまく活かしている街づくりを行っている。まちづくり条例など、ソフトな方法によるまちづくりもある

上海の事例のような河畔をうまく活かした町などがあり、都市再生の参考になる。

大胆な例として、北京の都市パターンで、中央公園を取り巻く環状型交通網を作り上げる都市パターンの提案

等、壮大な提案を基に都市再生が行われれば、良いのではないかと。

【窪田陽一先生のお話概要】

都市景観形成への取組

地方自治体の最近の動きとして美（うま）し国づくり政策大綱などにより、景観への取り組みなど、わが国の景観に対する関心が高まっている。景観基本法への取り組みなどが必要といわれている。

バブル以降、景観条例などによる取り組みが増えている。地方自治体の445団体、約15%、都道府県では、47のうち27都府県などが制定している。

景観形成の方法

良い目標づくり

修復する、今後作るものについていかにレベルを高めるには、どうすればよいのか。

空間の質を高めるためにどうするのか、土木学会では、デザインの評価を行い、7年前にデザイナーの顕彰を行う制度を作っている。誰が貢献したかを明確にし評価する。

良いものが評価を受けて、目標となるようにしたい。

多様な取組主体が必要

都市環境として全体の良さにどの部分がどの程度役立っているのか、問われる時代。

都市と都市の競争時代、財政的に格差があると考えられるが、公共のみならず、財団、民間、NPOなど多様な資金を元に取り組み必要がある。

景観評価などには、経験が必要

知られていない部分でよいものを掘り起こし、ていくことが必要。外国では財団が、都市デザインの補助をしているものもある。

シビルデザインへの支援として、米国のように企業も支援体制作りが必要

わが国のグッドデザイン賞などにおいても、土木デザインについても評価の対象としている。装置そのものに加え、周辺にどれだけ配慮し、風景として出来上がっているかが問われている。歴史的なものの、新しいものの組み合わせ等や修復する場合、周りを読み込んで環境を作り出していくことが必要。



窪田陽一先生

設計能力を高めていくためにも賞の持つ意味がある。

海外は、賞の受賞暦は、重要なポイントとなっている。日本にも今後大切な評価となろう。

どうすれば、美しいものが出来るのか、モデルケースを作っていく必要がある。

評価基準などのモデルも重要である。

【質疑】

質疑では、まちの美しさは、感覚都市として方向感覚、町の中に食文化が必要などの指摘があった。

また、美しさは、それぞれの地域で評価すべきで、誰が評価するのかが問題で、フランスのポルドー地方の避寒地アルカシオンについて、景観の監査を行う招聘があったが、初めて来た人が何に興味を持つのかを見てもらう。当局は、景観に対し、各種の努力をしているが、外部の人の興味がとんでもないところにあることを知ることがあり、内部だけでは、なかなか評価できない。外部の人による

評価が必要であるとの指摘もあった。

ドイツのウエストバーデン州では、良いものには税金を緩和する措置を講じている。などの美しさに優遇制度を考えることが必要

昭和28年ごろ景観砂防などの事例はあったが、皆は美しさを求めているものの日本人は美を評価しない風潮があるのではないか。経済効率のみを求めすぎた嫌いがある。

そのほか、汐留の事例など誰がコントロールしているのか、出来ないのかが問題である。

美しさと同時に、まちを壊す視点、破壊工学的視点が欠落していて、リニューアルの方法が無いものが多い。また、美しさの維持などについて、野外広告などについて、看板税などがあっても良いのでは、このためにも広告の効果を評価する必要がある。

等和气あいあいの議論の中で、会を終えました。

(記 小澤)

Announcement

研究会・催事の御案内

2003年9月 計交研・「当て塾」共催セミナー
第 講 観光の学と術の研究開発に向けて
9月10日(水) 第5章-1 観光行動論-1
9月24日(水) 第5章-2 観光行動論-2
時間・場所：17:00～19:00時 / 計画・交通研究会会議室
講師：「当て塾」塾長 鈴木忠義先生ほか

2003年9月那須地域視察旅行と
定例研究会
日時：平成15年9月19日(金)～9月20日(土)
費用：自己負担分 8,000円「ホテル宿泊・食事代金」
集合：新幹線那須塩原駅改札前
9月19日(金) 10:10厳守
参考：なすの233号 東京発8:44 - 上野

8:50 - 那須塩原着10:06
切符は往復とも各自ご購入ください。(自由席でも空席があると思います)
行程：
9月19日(金)
那須塩原発10:15「貸切バスにて」
那須野が原公園・サンサンタワー
いまどき、こんなところがあるのか？
芦野 石の美術館
庭と館の世界のデザイン賞受賞
余笹川 工事現場
未曾有の洪水とユニークな復旧(現地担当者の解説)
サンノーブル別荘開発
優良な別荘開発
道の駅「明治の森」・青木邸
国指定文化財・明治の元勳 青木周三邸

ヒバの並木が圧巻

ホテルサンバレー那須着17:00頃

那須で一番元気なホテル。飲み放題・
食い放題にご期待乞う。温泉プールあ
り。水着用意。

夕食時：討論会を実施

9月20日（土）

8:00 - 8:30 朝食 朝食後部屋を空け
て会議室へ移動願います

9:00 - 11:00 ホテル会議室にて

【定例研究会】

テーマ「人間に学ぶまちづくり」

まちに住むのは人間。動物でも機械でも、
コンピュータでもない。しかし現実には、
誰のためのまちづくりか分からないまちづ
くりが行われてきた。人間が住むまちをつ
くるにはどうしたらいいのか。あたりまえ
のことだがクライアントである人間に、人
間の本質に、学ぶほかない。

講師：鈴木忠義 先生

テキスト：「人間に学ぶまちづくり」鈴木忠義著
A5-131PP、 図-16、カラー写
真-95、平成15年3月（社）九州建
設弘済会発行 1,000円

本書は、国土交通省九州地方整備局「ス
キルアップセミナー」の講演録を中心にま
とめたもの。当日出席者（1社一部）に無
料配布予定。

11:00 ホテル発

11:30 地方の元気な遊園地 リンドウ湖
ファミリー牧場。民事再生法で
「あて塾」も協力。

15:00頃 黒磯駅にて解散

2003年10 - 11月行事

後日ご案内します。

Publication / Documents

刊行物・文献資料

所蔵文献資料紹介

本会事務局で所蔵している文献資料を順次
ご紹介します。ご希望により内容目次のコピ
ーをお送りしますので、電話・FAX・電子メ
ールのいずれかにより、「資料番号・目次コ
ピーの送付先・送付方法（FAX又は郵送）」
を事務局までお知らせ下さい。また、事務局
へお越しいただければ閲覧・貸出することが
出来ます。

資料番号、資料名、発行元、発行年月

030001 14年版交通政策と地域振興 国土
交通省総合政策局監修・運輸政策研究機構
平成15年3月

030002 14年度版 都市交通年報 国土交
通省総合政策局監修・運輸政策研究機構 平
成15年3月

030003 14年度版 地域交通年報 国土交
通省総合政策局監修・運輸政策研究機構 平
成14年3月

030004 14年度 都市交通統計における新
手法の開発研究報告書 運輸政策研究機構
平成15年3月

030005 公共交通における緊急事態への対
応に関する調査報告書 運輸政策研究機構
平成15年3月

030006 「海洋汚染防止」国際共同研究プ
ロジェクト報告書 運輸政策研究機構 平成
15年3月

030007 14年度「都市交通と環境」国際共
同研究プロジェクト報告書 運輸政策研究機
構 平成15年3月

030008 沖縄都市モノレール開業記念誌
沖縄都市モノレール(株) 平成15年8月

会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター(APTi)が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン(IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。(別途ホームページにて部屋の空き状況がわかり、申込みも容易にできるようなシステムを検討中)

個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員(地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望される

フェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

原稿執筆上のご注意

原稿のテキストファイルを電子メール(推奨。本文挿入または添付ファイルで)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍(上限4単位=1ページ分:表題・図表を含む)になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。

写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。

締め切りは偶数月の15日(必着)です。

計画・交通研究会

会長	中村 英夫
副会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
事務局長	窪田 陽一
会報編集委員長	天野 光一
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

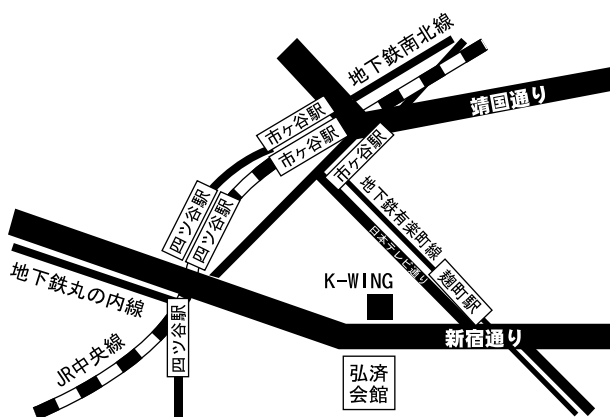
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp

Homepage = <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄丸の内線四ツ谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄南北線四ツ谷駅下車徒歩6分 / 営団地下鉄有楽町線麹町駅下車徒歩4分